平成３０年度　第５回行財政改革推進委員会　会議録（要旨）

１　日　時　平成３０年１０月１２日（金）１８：３０～２０：５３
２　場　所　旭川市総合庁舎２階　秘書課第２応接室
３　出席者　秋山委員，浅沼委員，梅津委員，川邊委員，篠原委員
（事務局）総務部行政改革課　向井部長，松田課長，青葉主査，木村
（所管課）社会教育部　科学館　伊藤館長，中田副館長，猪狩
文化振興課　八木文化ホール担当課長
大雪クリスタルホール　滝野沢館長，神田主査
博物館　杉山館長，髙橋副館長
４　公開・非公開の別　公開
５　会議資料
次第
行政評価シート（科学館）
資料　旭川市科学館報２０１７
行政評価シート（大雪クリスタルホール）
資料　クリスタルホール利用及び自主文化状況
行政評価シート（博物館）
資料　旭川市博物館報２０１７
６　議事要旨
⑴　平成３０年度の行政評価について
行政評価シート等に基づき，所管課から施設の概要を説明した後に質疑応答を行った。
質疑の概要は次のとおり。

●科学館
（委員）
総利用人数について，ここ３年で２５万人にも達していない中で，平成３０年度の見込みが２８万人なのはなぜか。
（所管課）
開館当時の目標を据え置いているためである。平成２４年度から２８万人を割り込むようになってきている。
（委員）
平成２９年度の実績から考えると，２８万人達成のためには６万人増やさなければならない。具体的にどのように算出しているのか。
（所管課）
常設展示やプラネタリウムなど，それぞれの数字を積み上げて作っている。有料観覧者数を約６万５千人と見込んでいるが，実際は約３万５千人程度になっている。
（委員）
入館者数が減ってきている原因は分析しているのか。
（所管課）
施設の老朽化に問題がある。その当時は先端の科学技術であっても，１０年以上が経過し

て陳腐化している。例えば，当時最先端のミックスド・リアリティを全国初で導入したが，現在はＶＲ（バーチャル・リアリティ）などの技術が出てきており，当たり前のものになった。少子化の影響もあると思うが，そういったことが影響して，リピーターが減っている。

（委員）

そうすると，今後も技術の進歩は続いていくので，科学館が新しくならない限り，入館者数が増えることがないのではないか。

（所管課）

展示機器のリニューアルや，ソフト事業を充実させるなどの方策で，入館者を維持できるよう努力しているが，２８万人の目標は厳しいと感じている。

（委員）

旧科学館に小さい頃は通っていた。科学に興味を持ったきっかけだったが，施設が古くなり，同じ状況であったと思う。やはり，展示物は定期的に入替えが必要だと思うし，ディズニーは定期的に入れ替えているから入場者を維持できていると思う。料金が桁違いなので，行政では厳しいかもしれないが，観覧料を値上げするなどの方策は必要かもしれない。

国の補助金はもらえるのか。

（所管課）

科学館向けのメニューは，なかなかない。

（委員）

道路や橋ではないので難しいのかもしれない。

正職員の１１名がどんな業務をしているのかわからないが，科学館は子供達に夢を与える必要な施設だと思うので，指定管理者制度を検討するなど，何か方策を考えてほしい。

（所管課）

展示設備はオーダーメイドで作っており，１つ何千万円もする。リースや補助金，企業との連携などの方策は考えている。旭川市は大きな企業が少なく，例えば苫小牧は，企業と連携した展示をしているが，なかなか旭川は難しい。ただ，いろんな方策を模索中である。

（委員）

北海道などの研究機関と連携するのも良いかもしれない。

（委員）

特に社会教育施設は評価の軸が大事だと思う。

２８万人というのは，単に入って出ていった数字であって，そこが重要なのではない。子供達に科学のおもしろさや物の成り立ちを伝えることができたか，どれだけの人の目を輝かせることができたのかが，評価の一番重要なところではないのか。

こういう施設は，どう考えても割に合わない。行政がやることは基本的に赤字になるのはしょうがない。収益が出るものは民間がやるべき。赤字は少ない方が良いが，赤字は出ていても，これだけのことをやっているというのが大事。基礎研究費が国から削られていて，科学者や研究者になりたい人も減っており，研究者になるのは今本当に大変である。でも，なければならない職種だと思う。単年度の赤字をどうするかになると，使えるお金を確保するために，いかに縮めていくかという方向になってしまう。

今後は災害についても真剣に考えないといけない。道東の人は，割と地震に慣れているが，今回の地震で旭川の被害はほとんどなかったにも関わらず，パニックになっていた。普段体験できないのであれば，科学館のようなところで疑似体験できるようにする方法もある。
今も体験施設があるかもしれないが，例えばそういう事に特化してみてはどうか。

家具の制作には，木の性質を知るための化学の知識，人の体重を支えるための物理構造の知識など，多くの科学の知識が必要である。せっかく地場に家具産業があるので，そこと科学を融合させるような方策も考えられる。地元の企業も設計のデザイナーも協力してくれるのではないか。地元の産業に触れる機会であれば，あまりお金をかけなくてもできるのではないか。

若い世代の自然科学に対する興味をどれだけ引けたか。これだけ赤字があっても，それだけの貢献はあるという，館としての評価軸が必要ではないか。

（委員）

古いから来ないと思うと，来ない理由ばかりを考える。今ある物を活かして何か考えれば，おもしろい事ができるのではないか。

（委員）

コンテストをするのもおもしろいかもしれない。アイデア自体を市民から募る。

（所管課）

地場の産業に結びつけて何かをするということはなかったので，意見を参考にいろんな事を考えていきたい。

（委員）

昔，社会人講師として小学校で教えたことがある。木工関係など，旭川にもいろんな事をやっている人がいるので，協力してくれる人はいると思う。そういった人材を活かして，何か企画してもおもしろいのではないか。

（委員）

旭川でできる事を考えることが大事だと思う。

ボランティアの創設に関わったが，当時，みんなが意気揚々としていた。２００～３００人いたボランティアが１２０人程度に減少したことには，何かしらの原因がある。その原因を探ることが全てにつながるのではないだろうか。

●大雪クリスタルホール

（委員）

正職員５名の仕事の内容について確認したい。

（所管課）

利用料と利用の決定，自主文化事業の企画と開催，修繕の事務手続，委託の事務手続と連絡調整などである。

（委員）

施設裏側（中庭等）の利用促進も考えた方がいい。

（委員）

平成２８年度から２９年度にかけて，人件費が約３４０万円減少している一方で，委託費が約１，２００万円増加している。この差額について説明してほしい。

（所管課）

２つの委託業務の事業者選定でプロポーザル方式を導入した影響である。これまでは，指名競争入札で実施しており，入札で金額が下がっていた。プロポーザルは提案内容を重視する方式であり，経費削減に対する配点が低かった影響もあり，予定額に近い価格での決定となってしまった。結果，指名競争入札よりも委託額が高くなってしまった。文化会館が，同様の内容で議会から問題視された。

（委員）
安くなるから委託するのが，本来の主旨ではないか。これまでできなかった事ができるようになった要素があるのか。
（所管課）
指名競争入札の時はこちらで仕様を決めていたが，例えば舞台の作り方のアドバイスなど，提案をもらえるようになった。ただ，議会から経費の配点を高めるべきとの指摘があり，文化会館は今年経費の配点を高めた。
（委員）
国際会議場はどのように利用されているのか。ＭＩＣＥ（会議，学術・国際会議，展示会など）の誘致が世界的に推進されていると思う。市としてそういう動きはあるのか。
（所管課）
国際会議の利用には，なかなか結びついていない。
コンベンション誘致については観光スポーツ交流部が中心に動いているが，医学系の学会が多い。その中で，クリスタルホールを紹介してもらっている。大会議室の定員が３００人であり，音楽堂が６００人くらいなので，小規模から中規模になる。文化会館は１，５００人以上収容の大ホールと，３００人収容の小ホール，近くにホテルもあるので，合わせると大規模なものに対応できる。大会の規模に応じて対応している。
（委員）
同時通訳室があったと思うが，使用しているのか。
（所管課）
使用したことはあるが，近年は使用していない。
（委員）
５，０００人規模のインパクトのある誘致が必要だと思う。観光だと通過型になる可能性があるが，こういった学会等は滞在するし，使う単価も大きいので注目されている。３６街や企業のＰＲなどにも好影響が見込まれる。市役所と企業が戦略を持って連携すれば，まだ稼働の余地はあると思う。旭川市は来てみたら良い所という評価があるので，市として戦略を持って取り組むべきである。
（委員）
使用料は平均と比べて高いのか。
（所管課）
道内他都市と比べると高くはない。文化会館と比べると，クリスタルホールは少し高いという意見はある。
施設裏側の利用について，中庭で夜に飲食するなど，そういう雰囲気を作ることができる施設だと思う。今年度も，家具業界が利用した際に，ホテルと連携して中庭でガーデンパーティーを開きながら講演会や発表会をした。過去には，神楽地区全域を使って，除雪機器の展示をしたこともある。これは全国的な規模であったし，雪がある旭川の特性を活かせたと思う。
（委員）
今は，学会自体の会計が苦しいので，施設が良いだけでは誘致は難しい。施設経費を抑えて，他に費用を使いたいという要望があるので，そこら辺のミスマッチがあると思う。ただ，口コミの力も大きいので，施設の良さをＰＲすることも，もちろん大事ではある。

（委員）
　回数券のように，１０回使ったら１回無料になるとか。
（所管課）
　新規も大事だが，繰り返し施設を使ってもらうのは大事だと考えている。そういった工夫や手法は必要である。
（委員）
　施設の利用率が７割ということは，３割は使用していないということである。改善の余地はまだまだあるのではないか。
（所管課）
　音楽堂も国際会議場も週末の利用が多く，週末は９割近い利用率である。逆に平日の利用が少ない。平日の利用を増やす取組が必要だと思っている。

●博物館
（委員）
　指定管理者の担い手がいないというのは，どういう状態を指しているのか。募集したが応募がないということか。
（所管課）
　募集には至っていない。図書館，科学館，博物館は専門性が高く直営のままである。ただ，指定管理者制度を導入した場合のシミュレーションや調査をしている段階である。
（委員）
　担い手となる団体がいないわけではないのではないか。
（所管課）
　道内の状況を見ると，教育文化財団のような団体が受け皿になっており，旭川にはそういった財団はない。学芸活動など一般の会社に担ってもらうには難しい要素がある。例えば考古学のような特定分野の研究者が必要だが，応募してもなかなか来てくれない。研究者であるので長く安定的に研究したいという要望もある（指定管理者制度だと，５年くらいの期間で担い手が変わる可能性がある）。
（委員）
　市の職員も異動があると思う。専門が高いのであれば，異動しては困るのではないか。
（所管課）
　専門ではない分野を人事の都合で担ってもらうことはある。庶務業務を含めて，負担はあると思う。
（委員）
　そうであれば，専門的な団体に任せた方が良いのではないか。
（所管課）
　それが望ましいとは思う。
（委員）
　指定管理者制度についても積極的に考えた方が将来的に良いのではないか。
（所管課）
　人の手当に費用がかかったり，経費とのバランスを考える必要がある。運営について委託できる部分は委託済なので，経費を下げる余地はあまりないと思う。資料の購入もできない状況なため，財産を増やしてのＰＲができない。いかに企画物で目新しい物を用意できるか

になっている。
（事務局）
施設の維持管理業務は指定管理者が担い，学芸業務は自治体職員が担っている事例があるので，必ずしも全てを指定管理者に担わせる必要はないのではないか。そこら辺の検討はしているのか。
（所管課）
複合施設であるので，博物館単独ではできない。クリスタルホールとセットで検討しており，メリットはあると思う。
（委員）
整理すると，指定管理者制度を導入すること自体は可能であるが，学芸部分は含めたくないという理解でよいか。
（所管課）
クリスタルホールとのセットであれば可能性はあるし，そういう方向が望ましいと考えている。学芸部分については含めたくないし，難しいと考えている。
（委員）
旭川市民無料の日を制定したらどうか。
（所管課）
１１月３日（文化の日）は社会教育施設全てを無料にしている。
それぞれの施設がイベントも実施している。
市民広報含めてＰＲしているが，新聞等は紙面の都合で載らない場合もある。ＰＲは課題だと思っている。
（委員）
野幌にある北海道博物館はどういう運営形態か。
（所管課）
財団が指定管理者となり，学芸員は道職員である。
（委員）
フェイスブックのアカウントを開設したと書いてあるが，最近のＳＮＳの流行では，例えば大企業が頭にシャープ（ハッシュタグ）を付けて柔らかい感じで発信している。そういった方法で，ツイッターでアカウント開設した方が，広まりやすさはフェイスブックよりもずっと上だと思う。
（委員）
博物館はインスタの方が有効ではないか。アイヌの展示などはインスタ映えすると思う。
（委員）
漫画のゴールデンカムイも人気があり，そういう流れに乗った方がよい。
フェイスブックは他のＳＮＳに比べると限定されてしまう。
イベント時期に合わせて更新しているようなので，頻度も低いと思う。
（所管課）
担当者が専門でいるわけではないので，学芸活動の合間にやっている。ＳＮＳでの発信について，市としてまだまだオープンではなく，博物館単独での実施は現実的に難しい。ただ，日に一度は更新するとか，緑が多い場所なので季節感を伝えたり，それを双方向で行うのが理想だと思っている。片手間で発信しており，なかなかできていない。

（委員）
　フェイスブックなどのＳＮＳ系はタイムラインが流れていってしまう。イベント用に１回流しても，すぐに見られなくなってしまう。定期的に，常に発信し続ける必要がある。
（所管課）
　指摘されたように，今はいろんな手法があるので，それを有効に使えばもっと広まると思う。
（委員）
　市長のフェイスブックにチセが鹿に食べられたという話が載っていた。
（所管課）
　今年は鹿が多かった。全てを修復する資金がなかったり，作業員が集まらなかったりと大変であった。
（委員）
　ボランティアを募集すれば良かったのではないか。
（所管課）
　広報活動の一環として，市民を巻き込むというのは大事だと思っている。
（委員）
　インバウンドについて，中国語対策はしていないのか。英語よりも中国語の方が効果があるのではないか。
（所管課）
　英語が基本なので，英語を優先した方がよいという認識でいる。
　解説の文字が小さく，スペースも狭いという問題もある。
（委員）
　科学館もそうだが，若い世代向けの社会教育施設は親へのアプローチが重要だと思う。フェイスブックは親世代が見ていると思う。中身をしっかり見せたいならインスタ，若い世代に伝えたいならフェイスブックよりもツイッターの方が良い。
（委員）
　職業体験で博物館に行って学芸員の体験をしたことがある。個々の学芸員の研究内容は知られていないと思うので，ＳＮＳ等で発信していくべきではないか。
（所管課）
　講座で研究内容を少しまとめたものを伝えたり，論文を発表したりしているが，最近はなかなかできていない。指摘のとおり，興味を持ってもらえれば学芸員に話しかけやすくなるかもしれない。参考にしたい。
　ＰＲの面では，複合館であるため，科学館と違って，一見して外から博物館だと認識されづらいのも不利である。

●ヒアリング後の補足
《科学館》
（委員）
　ソフト部分に対しての意見が多かったと思う。どの施設も古くはなるし，新しいだけが科学館の良さではないので，老朽化を補うための努力をしてほしい。その中で，機器更新も考えていってほしい。

《大雪クリスタルホール》
（委員）
大学の全国大会があるが，大学で実施すると無料なので施設利用は考えなかった。
（委員）
文系は厳しいのではないか。理系は業者も関係するので可能性はある。
クリスタルホールは普通のコンサートやライブを実施しているのか。
（事務局）
基本的には実施していないと思う。収容規模が大きくないのと，クラシックに最適な音響になっている。ロックなどのコンサートをすると響き過ぎると思う。
（委員）
収容人数が中途半端なのが一番のネックなのではないか。興行的に難しいのではないか。

《博物館》
（事務局）
指定管理期間は５年に限ってはいない。長期も可能である。
（委員）
博物館に限らないが，知っている人が見れば価値があるものが結構あるのではないか。
（委員）
そういう意味では，人事異動の弊害もあるかも知れない。価値を知る前に異動になってしまうのではないか。
（事務局）
学芸員の異動のスパンは長い方である。長い人では２０年以上になっていると思う。

《全般》
（委員）
今回の対象施設全般に言えるが，指定管理者制度に敵対的な印象がある。制度の善し悪しはあるが，うまく利用して施設をより良くする検討は必要だと思う。
（委員）
評価の軸がないと，どうやって経費や人を削るかという話になる。こういう社会教育施設ほどそこを考えなくてはならない。予算配分において，どうしても優先順位が低くなると思う。若い人の未来に目を向けるのか，目の前の問題である高齢者や社会的弱者にお金をかけるのか，ここでどういう判断をするかで街の在り方は変わってくると思う。
（委員）
ただ，社会保障費は今後も増えていく。